

磐田市の予算と事業

問 財政課 ☎0538-37-4883 FAX0538-37-4876



市の予算と言われてもピンとこない方もいるかもしれません。そんな時は、家計のことに置き換えてみてください。

例えば「今年は子どもが進学するから受験にお金が掛かるので、他の出費は抑えよう」などとお金の使い方を計画する方もいるでしょう。市役所も同じように1年間の収入を見込み、市民の皆さんが住みやすいまちづくりを進めるためのさまざまな事業にお金をどのように使うのかを考え、計画的に執行しています。



そもそも予算って何ですか？

予算とは1年間の収入と支出をあらかじめ見積もることです。4月から翌年の3月までの1年間にどのくらいの収入があるか、その収入をもとにして、どのような事業を行うことができるかを新年度が始まる前に計画します。



市の予算はどのように決めていますか？

市が予算案をまとめ、市民を代表する市議会議員によって、新年度が始まる前の市議会で議決し、予算が初めて決められます。

市長施政方針（抜粋）

本年度の予算は、市民の皆さんがふるさと磐田への愛着を深め、自信と誇りを持って暮らすことができるよう、「次の時代に引き継ぐことができる明るく元気な磐田市」「たくさんさんの元気と笑顔がふれるまち磐田」の実現を目指しています。

今後、本市に限らず、地方自治体の多くが人口減少・少子高齢化に伴う、地域のコミュニティ機能の低下や年金、医療費などの社会保障に係る費用の増加といった課題に直面します。

このような状況を打破し厳しい都市間競争を勝ち抜いていくためには、これまで培ってきたまちづくりを基礎に、「人づくり」と交流センターを拠点とした「地域づくり」に全力で取り組んでいく必要があります。

地域の活力を維持・向上させるとともに、少しでも人口の減少を抑制し、次の時代に引き継ぐことができる、明るく元気な磐田市をつくるため、

本年度はこれからの10年に向け、「地域のつながり」や「人のつながり」を大切に、「市民主体のまちづくり」を積極的に展開することで「元気な人」と「元気な地域」をつくるとともに、引き続き、安心して出産・子育てができる環境づくりや、防災・減災対策などの充実を図ります。

一人でも多くの市民の皆さまから「子育て・教育なら磐田」「住みやすい、暮らしやすい」と思っていただけける全体のバランスが取れ、どこにも負けない「総合力ナンバーワン」のまちを目指して、今後とも市政運営に全力で取り組んでいきます。



平成 29 年度の市の予算総額

1,265 億 1,141 万円 (前年度比 1.2% 増)



一般会計

626 億 2,000 万円
(前年度比 1.6% 増)

福祉や教育、道路整備など、住民に広く行われる事業の会計のこと。少子高齢化に伴う扶助費や公共施設の老朽化に伴う維持管理費、JR新駅整備などの大規模事業の本格化により増額となっています。



特別会計

405 億 5,291 万円
(前年度比 0.9% 増)

国民健康保険税や下水道使用料など、使い道が決まっています。収支を明確にするため、一般会計と分けている会計のこと。市には国民健康保険事業特別会計や介護保険事業特別会計など 10 の特別会計があります。



企業会計

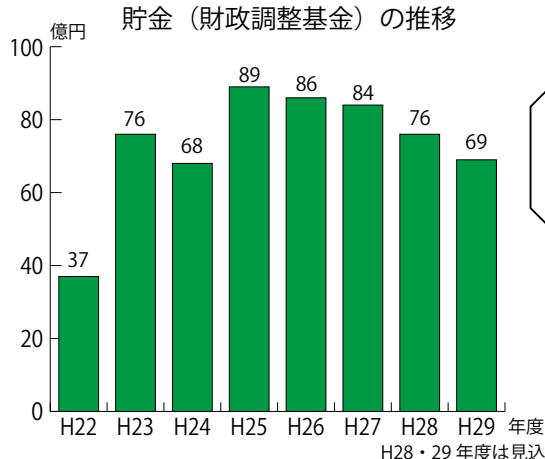
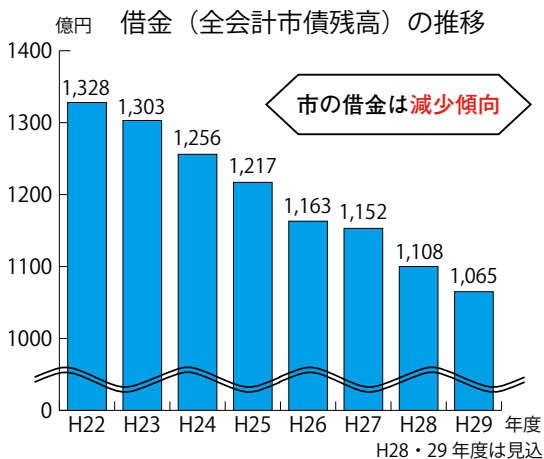
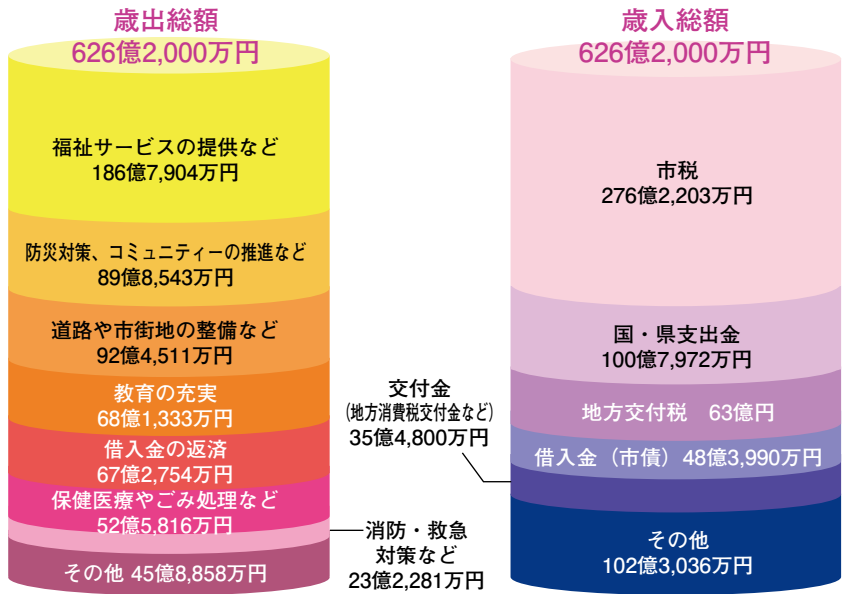
233 億 3,850 万円
(前年度比 0.6% 増)

利用料金などの収益で運営している会計のこと。市には水道事業会計と病院事業会計の 2 つがあります。水道事業では老朽管の更新工事や配水場の維持管理などを実施し、良質な飲料水の供給に努めています。

一般会計の内訳をしてみると



市民 1 人当たりで換算すると **36 万 7,484 円** が使われるんだね (平成 29 年 2 月 28 日現在の人口 170,402 人で計算)



磐田市の事業 3つの基本目標

子育て・教育のまちづくり

安心して子どもを育てられる環境の充実を図るとともに、次代を担う子どもたちが明るい希望や夢を持ち、たくましく育つ「子育て・教育のまち」を目指します。

安全・安心なまちづくり

災害や犯罪、交通事故などに対する不安を解消し、地域における支え合いを大切にしながら、高齢者や障がい者など市民が住み慣れた地域で健やかに暮らせる「安全・安心なまち」を目指します。

地域・自立・活力のあるまちづくり

交流センターを拠点とし、地域が自主性を持って取り組むまちづくりを支援し、地域に根差した産業や経済活動が盛んで、市民が誇りや愛着を持ち続けられる「地域の自立と活力のあるまち」を目指します。

本年度の予算はこの3つの基本目標を達成するために作られています。では、具体的にどのようなことを行うのかを「平成29年度の優先的な取り組み 6つの柱」で主な内容について紹介します。

「平成29年度優先的な取り組み 6つの柱」

市民生活の安全・安心の確保



放置された空き家の除却への助成制度の創設 1,000万円

放置された空き家を除却し、新たな土地活用を促進するため助成制度を創設

耐震シェルター設置への助成 2,900万円

耐震性に劣る木造住宅の除却、避難空間を確保できる耐震シェルターの設置に対して助成

消防団活動服の一斉更新 2,861万円

全団員の活動服などを一斉更新し、消防団員の士気向上などを図る

災害対応特殊救急自動車の更新 6,524万円

操作性、安全性が向上された災害対応特殊救急自動車2台を整備

子育て支援・教育の充実



こども医療費完全無料化 6億2,341万円

乳幼児から中学生までの入院・通院に係る自己負担をなくし完全無料化

(仮称) 中泉こども園の整備 3,507万円

新たなこども園の整備に向けた基本・実施設計を行う

母子保健型子育て世代包括支援センター設置 278万円

妊娠・出産・子育てについて切れ目なく支援するため、支援センターを設置

ヤング草莽塾提案事業 220万円

高校生提案によりイルミネーションを実施。またトイレの適正利用を促すために、子どもたちが描いた絵を公園のトイレに設置

都市基盤の整備と 快適な生活環境の確保



大池周辺の整備 1億8,602万円

市内外から人々が集う新たな交流スポットとして、ウォーキングコースや野鳥観察施設を主に整備。併せて周辺道路なども整備

道路区画線の集中補修 4,653万円

交通事故の撲滅に向け、道路区画線の補修を幹線道路や通学路を中心に集中的に実施

大島排水ポンプ場の整備 1,162万円

豊浜地区の浸水対策を推進するため、排水ポンプ場の整備に係る概略設計を実施

J R新駅の整備 9億2,821万円

平成31年度末の開業へ向け、駅舎・自由通路の基礎工事とホーム設置工事を実施

福祉の充実と 健康づくりの推進



成年後見制度報酬助成の対象者拡大 372万円

後見人などの報酬助成の対象者を、活用できる資産が無く、報酬の支払いが難しい低所得者などにも拡大

介護予防・日常生活支援総合事業がスタート 1億1,186万円

これまでの要支援認定者への介護サービスを市の地域支援事業に移行し「介護予防・生活支援サービス」として提供

地域密着型サービス事業所などの施設整備や開設支援 5,781万円

小規模多機能型居宅介護事業所などの施設整備や開設準備に対して助成

産業の育成支援と 移住定住の促進



マウンテンビュー経済交流の推進 593万円

中小企業などの海外展開を支援し、シリコンバレーにおける産業交流を推進

創業支援拠点を整備 1,038万円

ワークピア磐田に起業家や個人事業主などが交流・情報交換しながら、仕事やイベントを行うコワーキングスペースを整備

まちなか再生商業店舗出店への助成 368万円

中心市街地の商業活性化のため、ジュビロードにある市有建物への出店を支援

いわた茶缶のリニューアル 272万円

リニューアルにより磐田茶振興およびシティプロモーションを図る

コミュニティの活性化と スポーツ・文化の振興



地域づくり応援一括交付金の創設 1,437万円

地域の主体的な活動を支援するために地域づくり協議会へ一括交付金を交付

卓球場・アーチェリー場の整備 3億7,518万円

かぶと塚テニスコート跡地を有効活用し、生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境を整備

(仮称) 磐田市文化会館の整備 6億94万円

(仮称) 磐田市文化会館を整備するための基本・実施設計、用地取得を行う

駒ヶ根市との友好都市提携50周年交流事業 331万円

長野県駒ヶ根市との友好都市提携50周年を記念する事業を両市で実施

各会計予算は、市役所本庁舎および各支所の市政情報コーナー、各市立図書館で閲覧することができます。また、市ホームページにも掲載しています。

市HP

平成29年度当初予算

検索